

# 市従労NEWS

組合設立:1946年 組合本部所在地:〒921-8026 石川県金沢市糸田新町1-30

## 日本赤十字社 災害セミナー



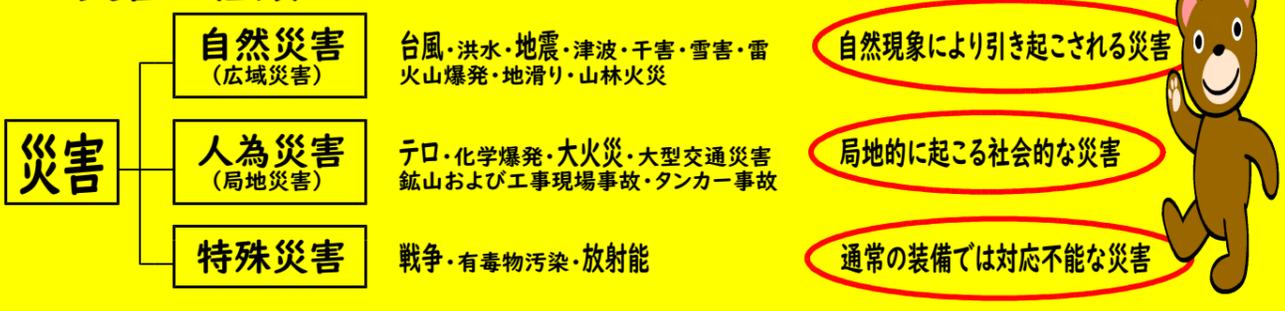
毎年、日本は地理的にも気象的な条件からも非常に多くの「地震災害」「気象災害」「火山災害」等が起こりやすい地域と言え、今までも地震による災害は1995年1月・阪神淡路大震災(最大震度7)、2004年10月・新潟県中越地震(最大震度7)、2005年3月・福岡県西方沖地震(最大震度6弱)、2011年3月・東日本大震災(最大震度7)、2016年4月・熊本地震(最大震度7)等では、非常に多くの死者・行方不明者を出し、未曾有の大災害(強い揺れ・大津波)が我々の生活に緊張感と恐怖感を植え付ける記憶と記録を残し続けています。

今後も30年以内に『大きな地震災害』が予想されており、首都直下型地震(南関東方面:70%の確立)や南海トラフ地震(70~80%の確立:死者数想定⇒約23万人規模)が挙げられています。

また、気象状況がもたらす災害には地球温暖化(気候変動)・環境汚染等による影響が強く現れる形での、昨今の「異常的自然現象」と言われるものがあり、猛烈台風、局地的(ゲリラ)豪雨、豪雪、平均気温上昇等による被害も年々増え続けており、洪水被害(河川の氾濫・土砂崩れ)、家屋倒壊被害、雪崩事故、大規模火災(自然発火・山林火災・落雷)、干ばつ被害(収穫減少による食料不足)、火山の爆発等もあります。



### <災害の種類>



重要 Point ~ 公衆電話は災害時に一般電話・携帯電話より繋がるよ!! ~

### いざという時に備え、日頃から「非常時の準備」忘れずに!!

<災害時の心構え>

◎ 災害時の**基本**原則 = 3つの「助」

- 1 『自助』 … 自らの生命・身体・財産は自らで守る!!
- 2 『共助』 … みんなで助け合い(協力)で守る!!
- 3 『公助』 … 行政・公的機関などの災害対策で守る!!



特に災害時(発災直後)は、『公助』にあたる都道府県・市区町村等の行政機関や公的機関については、建物の倒壊や道路の寸断等により地域全体が孤立状態に陥ることも予想されるほか、最悪の場合は何より行政(職員)そのもの自身が被災して災害対策が滞る場面も想定されます。

何より地域全体の「防災力」を高めて、災害被害を最少限度に食い止めるためにも『自助』『共助』『公助』、それぞれみんなが力を1つに揃えて困難を乗り越えて行きましょう。



<ご家庭での備え>

- 1 避難場所やハザードマップの確認!!
- 2 日頃からの近所とのお付き合い!!
- 3 連絡先および連絡方法の確認!!
- 4 お住まいにおける安全チェック!!



今回、日本赤十字社(石川県支部)が9月17日(土曜)に開催した『赤十字災害セミナー』を受講するなかで、これまでの多くの『災害』を実際に体験した実談( Episode )も交え、災害現場で学んだ知恵や知識等を聞いた事もあり、今後の自分の身に起きるであろう「災害への備え」の重要性も学んだ貴重な時間でもありました。  
『災害はいつか必ず起こる!! 日本赤十字社』これに伴う、災害に対する経験や支援・

サポートの知識、応急処置や対策の進め方(ノウハウ)等も含めて、災害から人命を守る役割を改めて感じました。講師担当の方も「ひと一言」が、非常に丁寧な伝え方により聞き取りやすく、元看護師をされていた経験を生かしながら日本赤十字社で様々な活動に日々携わっている視点(観点)での会話術であり、いざという時に役立つ知識・技術を約2時間にわたり、体験プログラム(毛布を使った応用担架・保温ガウン、ハンカチ&パンストを使った応用包帯、新聞紙で作る簡易スリッパ・バッグ製作等)も実際に交えながら、参加者同士で手軽に学べた点も含め、将来に向けた日頃からの準備、防災教育こそが、今後は極めて重要になってくることを強く実感できる内容構成は抜群でした。

本来であれば、災害エスノグラフィー(過去の大規模災害を追体験)、災害図上訓練(防災マップ作成)等もセミナーのカリキュラムの中にはありますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり一部短縮……次回には救急法(赤十字ベーシックライフサポーター認定)や健康生活支援講習等も含めて、参加申込みを考えたい内容でもあります。

